

3 東日本大震災から1年

災害はけっして終わっていない。現在も続いている——
『みんなのねがい』2012年6月号では、東日本大震災1年後の特集を組みました。

東日本大震災から一年が経過しました。大震災は私たちの意識を大きく変えるきっかけになりました。しかし、大震災は過去のものではなく、地震や津波からの復興、原発事故、すべてが現在進行形の出来事です。

今月号では、被災地で障害のある方たちの支援などに取り組んだ方がたが、あれから、そしてこれからの思いを語っています。私たちがどういった「これから」をつくり出していくのかを考えていきたいと思えます。

『みんなのねがい』2012年6月号特集のことば

対談

障害のある人の“いのち”を守る取り組み

～南相馬の調査・訪問活動～



JDF被災地障がい者支援センター
ふくしま事務局長

和田庄司

南相馬市役所健康福祉部部長

西浦武義

西浦 この三月、南相馬市議会で、「個人情報保護条例の改正」が通りました。「災害時や緊急時には個人情報公開を目的外に使用してもいいですよ」というものですが、
「個人情報保護法は「孤立死」問題などでも課題になっていますよね。多くの自治体で壁になっているその法律を、南相馬市では乗り越えたということがありますね。」

西浦 私もびっくりしています。でも異論はなかった。震災の際に、JDF（日本障害フォーラム）に障害者手帳保持者の名簿を開示し、該当者全戸（五三四名）を訪問していただき、大きな成果をあげたからです。

つながっていない人を
支援するために

和田 私は郡山の作業所で働いている一職員です。ふだんは長靴をはいて田んぼや畑、ニワトリ小屋で作業をしています。

今回の地震では、それぞれの障害者団体がバラバラに動いても何の解決にもならないということで、県内二〇を超える障害者